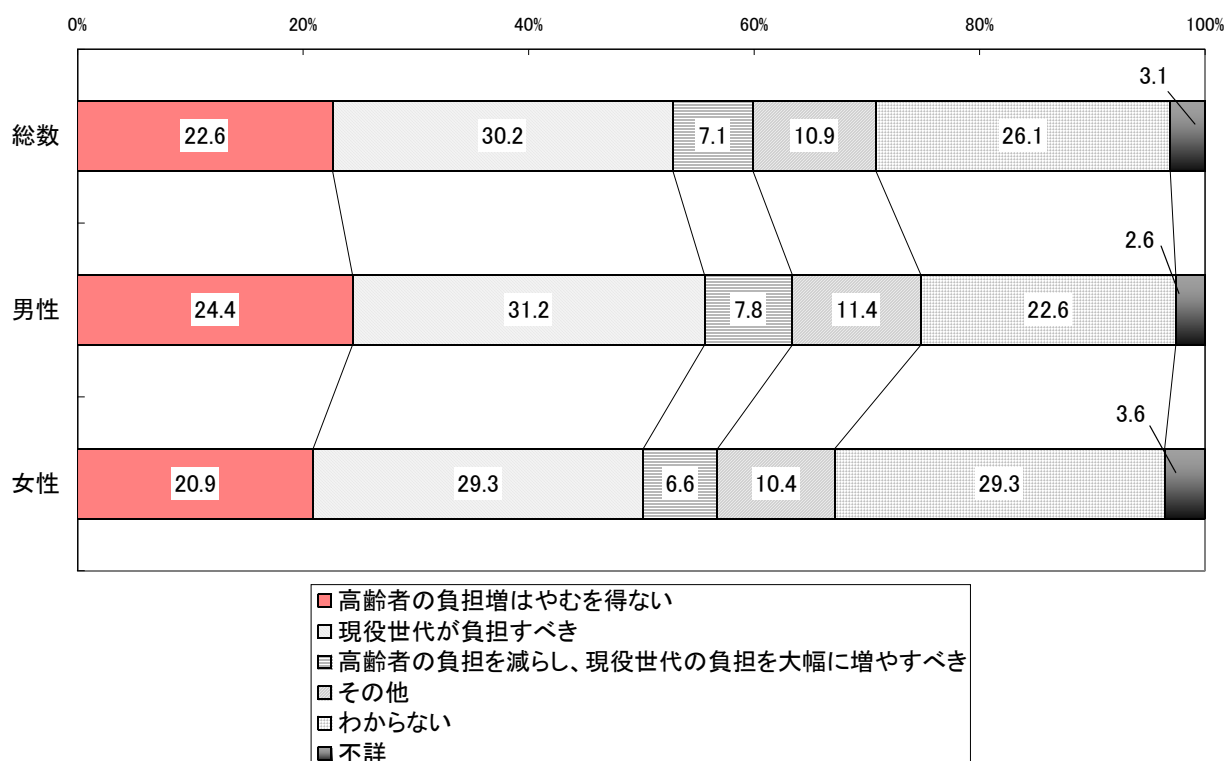


#### 1.4 少子高齢化が進行する状況での、社会保障の負担の考え方について

・今後、見込まれる負担増については、現役世代が負担すべき、高齢者の負担増はやむを得ないとする者がそれぞれ2～3割

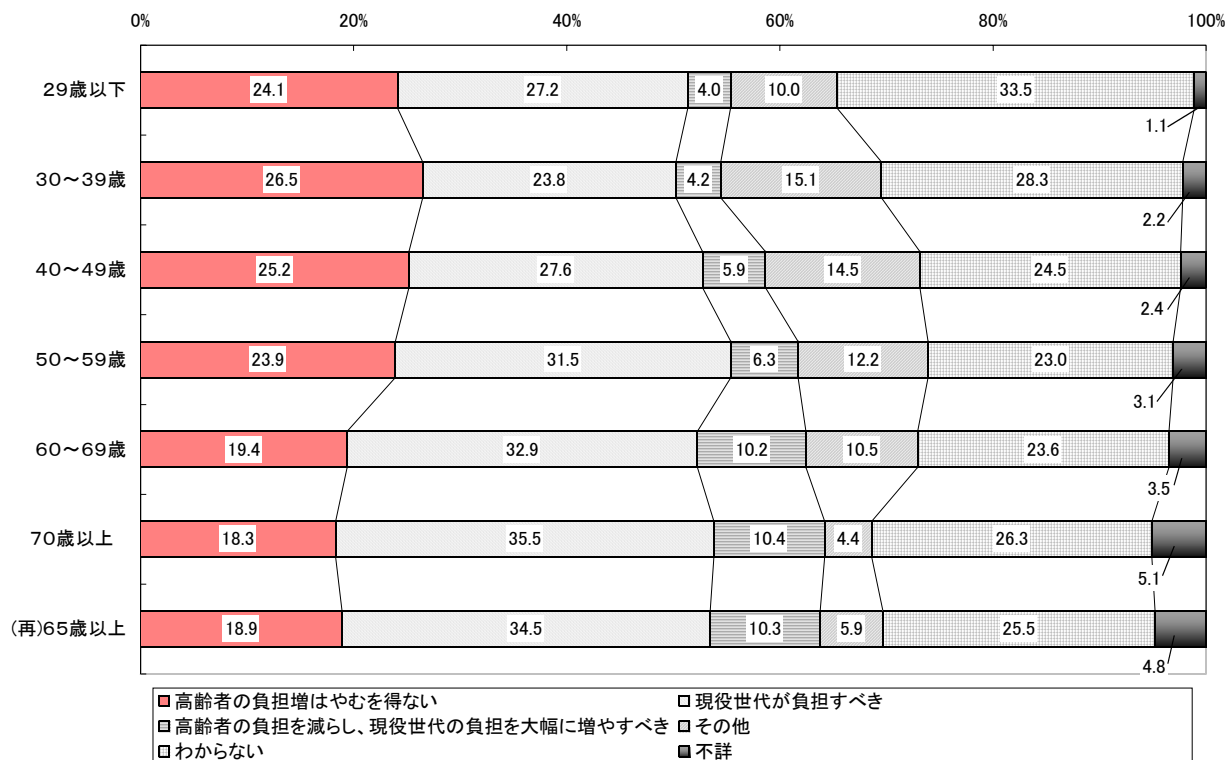
少子高齢化が進行する状況においての、社会保障の負担の考え方について「高齢者の負担は現状程度で留めるべきであり、少子高齢化による負担増は、現役世代が負担すべきである」とする者の割合が30.2%、次いで「現役世代の負担の上昇を緩和するためには、高齢者の負担が今より重くなってもやむを得ない」とする者が、22.6%となった。

図 2.7 少子高齢化が進行する状況での、社会保障の負担の考え方について



年齢階級別にみると、若い世代では「現役世代の負担の上昇を緩和するためには、高齢者の負担が今より重くなってもやむを得ない」の割合が多くなっているのに対し、高年齢層では「高齢者の負担は現状程度で留めるべきであり、少子高齢化による負担増は、現役世代が負担すべきである」「高齢者の負担は現状でも重いので負担を引き下げ、現役世代の負担を大幅に増やすべきである」が多くなっている。

図 28 年齢階級別にみた少子高齢化が進行する状況での、社会保障の負担の考え方について



これを世帯の所得階級別にみると、所得階級があがるにつれて、「現役世代の負担の上昇を緩和するためには、高齢者の負担が今より重くなってもやむを得ない」の割合が多くなっているのに対し、所得階級が下がるにつれて、「高齢者の負担は現状でも重いので負担を引き下げ、現役世代の負担を大幅に増やすべきである」が多くなっている。

図 2 9 世帯の所得階級別にみた社会保障の負担の考え方について

